

INABA DENKI SANGYO CO.,LTD.

2026年3月期
第2四半期（中間期）決算説明資料



因幡電機産業株式会社 東証プライム：9934

ただいまより、因幡電機産業株式会社「2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）決算」の説明を行います。

私は、6 月に代表取締役社長に就任いたしました玉垣でございます。

どうぞ宜しくお願いいたします。

- 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
- 中期経営計画に基づく各セグメントの展望
- 2026年3月期 業績予想
- 株主還元について

見通し、計画、目標等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本日は、ご覧の流れでご説明いたします。

まず、2026年3月期第2四半期（中間期）決算の概要をご説明した後、中期経営計画に基づく各セグメントの展望と2026年3月期の業績予想についてお伝えいたします。

その後、2025年10月31日付で公表いたしました、株式分割と自己株式の取得など株主還元策についてご説明いたします。

連結損益計算書



(百万円)

	FY24 2Q	構成比	FY25 2Q	構成比	増減額	増減率
売上高	179,729	100%	192,246	100%	12,517	7.0%
売上総利益	31,335	17.4%	34,638	18.0%	3,303	10.5%
販管費	19,509		20,585		1,076	5.5%
営業利益	11,826	6.6%	14,053	7.3%	2,227	18.8%
営業外損益	591		1,148		556	94.1%
経常利益	12,417	6.9%	15,201	7.9%	2,784	22.4%
特別損益	-174		1		175	-
税金等調整前 中間純利益	12,243	6.8%	15,202	7.9%	2,959	24.2%
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,438	4.7%	10,622	5.5%	2,184	25.9%

※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しております。
また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-」表示しております。

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

3

スライドの資料は連結損益計算書を表示しております。

売上高は、前年同期比で7.0%増加の、1,922億46百万円となりました。

売上総利益は、10.5%増加し、346億38百万円、
売上総利益率は、0.6ポイント上昇し、18.0%となりました。

事業所のメンテナンスに伴う修繕費やシステム関連費用などの増加により、販管費は5.5%増加いたしました。
営業利益は、18.8%増加の140億53百万円となりました。

経常利益は、22.4%増加の152億1百万円、
親会社株主に帰属する中間純利益は、25.9%増加の106億22百万円となり、
中間期決算として過去最高業績を更新いたしました。

セグメント別 業績推移



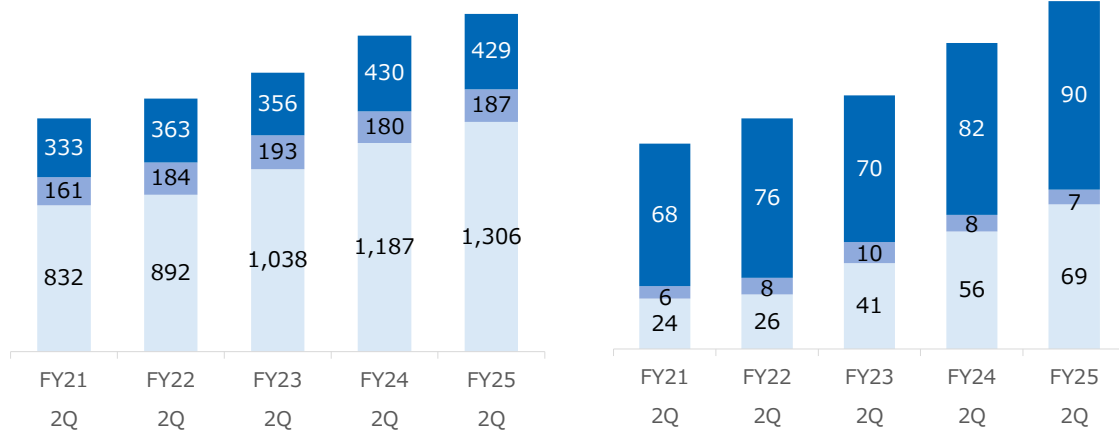
■ 電設資材 ■ 産業機器 ■ 自社製品

売上高

(億円)

セグメント利益

(億円)



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

4

次の資料はセグメント別の業績推移をグラフ化しております。

セグメントにつきましては、商社部門の「電設資材事業」と「産業機器事業」、そしてメーカー部門の「自社製品事業」と、大きく3つに分類しております。

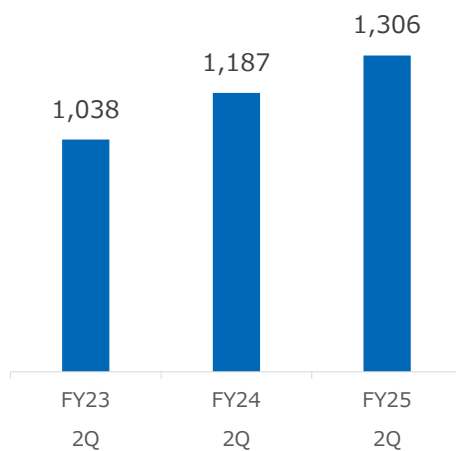
ご覧の通り、売上構成では商社部門が大きなウェイトを占めておりますが、利益構成ではメーカー部門の「自社製品事業」が柱となっているのが、当社の事業構造の特徴であります。

次に、各セグメントの業績につきまして、順次説明いたします。

売上高

(億円)

売上高 前年同期比+10.0%



電設資材全般において物流コストや原材料価格の高騰などによる販売価格の上昇が継続。大都市圏の再開発や工場、データセンターなど大型物件向けの納入が好調に推移し、商品別では受配電設備や空調設備などの販売が増加したほか、第2四半期に電線ケーブル類の販売が伸長。

参考指標

	前年同期比	
	FY24 2Q	FY25 2Q
民間非居住建築物 着工床面積	▲9.6%	▲4.0%
新設住宅着工戸数	▲0.8%	▲17.4%

出所：国土交通省

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

5

まず、電設資材事業の業績についてご説明いたします。

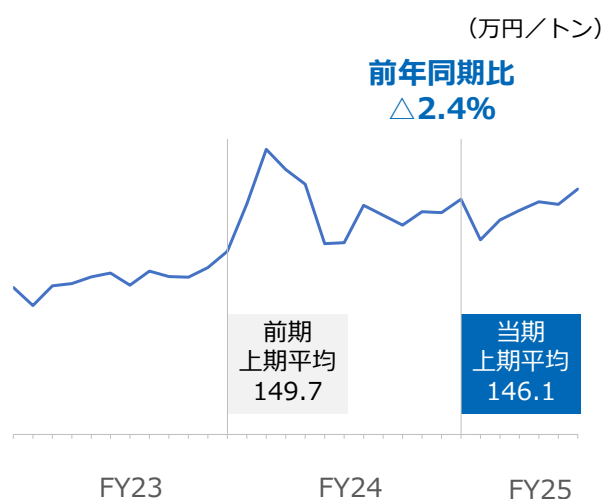
電設資材事業は、オフィスビル、商業施設、工場、住宅向けに電線や照明器具、受配電設備などの電設資材を販売しております。

売上高は、前年同期比で10.0%増加し、1,306億円となりました。

電設資材全般において、物流コストや原材料価格の高騰などによる販売価格の上昇が継続するなか、大都市圏の再開発や工場、データセンターなど大型物件向けの納入が好調に推移しました。

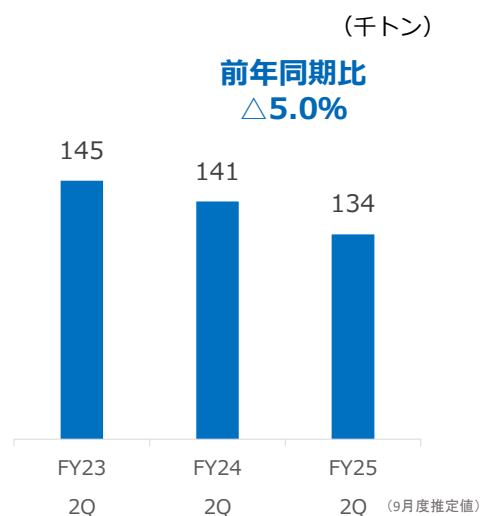
商品別では、受配電設備や空調設備などの販売が増加したほか、第2四半期に電線ケーブル類の販売が伸長しました。

■銅建値



出所：JX金属㈱

■銅電線（建設・電線販売業）出荷量



出所：日本電線工業会

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

6

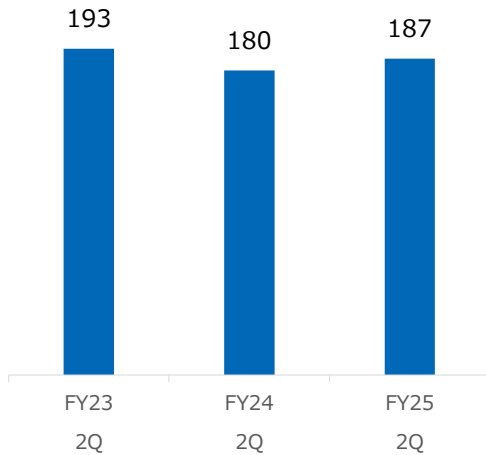
この資料は、電線に関する銅の市況を示したスライドになります。

左側の折れ線グラフは国内における「銅建値」、
右側の棒グラフは建設・電線販売業における「銅電線の出荷量」の推移を表しております。

銅建値は、上半期平均の前年同期比では 2.4%のマイナスとなったものの、引き続き高い水準で推移しました。

建設・電線販売業における銅電線の出荷量は前年同期比で減少とみられておりますが、当社では、販売価格の適正化に加え、在庫施策、営業努力により、電線ケーブル類の売上は約 4%増加し、販売量も増加いたしました。

売上高 (億円)



売上高 前年同期比+3.9%

半導体関連の在庫調整の影響が一部で継続したことで電子部品の販売は伸び悩むも、人手不足に伴う省力化・自動化需要などを背景に製造業における設備投資に持ち直しの動きが見られ、ロボットや制御機器類の販売が増加。

参考指標

	前年同期比	
電気制御機器 国内出荷額	FY24 2Q	FY25 2Q
	Δ22.4%	+5.7%
電子部品・デバイス 生産実績	FY24 8月累計	FY25 8月累計
	+11.8%	+1.4%

出所：日本電気制御機器工業会
電子情報技術産業協会

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

7

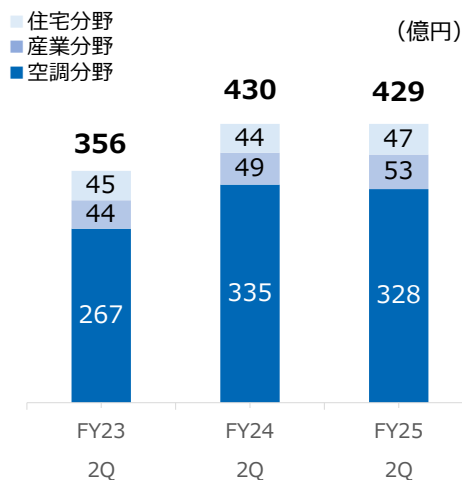
次に、産業機器事業の業績について説明いたします。

産業機器事業は、制御機器や電子部品を取り扱っており、そのため、国内における設備投資の動向に影響を受けます。

売上高は前年同期比で3.9%増加し、187億円となりました。

半導体関連の在庫調整の影響が一部で継続したことで電子部品の販売は伸び悩みましたが、人手不足に伴う省力化・自動化需要などを背景に製造業における設備投資に持ち直しの動きが見られ、ロボットや制御機器類の販売が増加しました。

売上高 前年同期比△0.2%



空調分野 **INABA DENKO**

売上高 前年同期比△2.1%

自社製品事業の7割以上を占める収益の柱

参考指標

ルームエアコン
国内出荷台数

前年同期比

FY24 2Q FY25 2Q

+9.0% +4.0%

出所：日本冷凍空調工業会

産業分野 **PATLITE®**

売上高 前年同期比+7.9%

海外向け販売が増加し増収

住宅分野 **Abaniact**

売上高 前年同期比+5.5%

情報配線システムなどの自社製品の販売が増加

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

8

次に自社製品事業の業績についてご説明いたします。

自社製品事業は、主に3つのブランドで構成されております。

空調分野の「INABA DENKO」、住宅分野の「アバニアクト」、

そして産業分野の「パトライト」でございます。

売上高は、前年同期比で0.2%減少し、429億円となりました。

分野別の業績につきましては、

空調分野は前年同期比で2.1%減少し、328億円となりました。

堅調なルームエアコンの出荷を背景として主力製品である被覆銅管や空調配管化粧カバー「スリムダクトシリーズ」などの販売は底堅く推移したものの、前年同期に価格改定前の駆け込み需要が発生したことや、空調需要の高まる北日本で販売が上振れしたことによる反動減がありました。

産業分野は、連結子会社の(株)パトライトにおいて海外向け販売が増加し、前年同期比で7.9%増加の53億円となりました。

住宅分野は、情報配線システムなどの自社製品の販売が増加し、前年同期比で5.5%増加の47億円となりました。

空調分野に偏った売上を変革すべく、開発機能の一層の強化を図り、新たな収益の柱となる新製品開発に注力しております。

(百万円)

	FY24 2Q	FY25 2Q	増減額	増減率
受取配当金	514	919	405	78.8%
受取利息	57	170	112	195.4%
その他	194	151	-42	-21.9%
営業外収益 (A)	766	1,241	475	62.0%
支払利息	10	11	0	6.5%
為替差損	110	5	-104	-94.8%
その他	53	76	22	41.8%
営業外費用 (B)	174	93	-81	-46.6%
営業外損益 (A - B)	591	1,148	556	94.1%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

9

次に、営業外損益についてご説明いたします。

受取配当金や受取利息の増加により、営業外収益は増加しました。
また、為替差損の減少により、営業外費用は減少しました。

その結果、営業外損益は前年同期と比べ 5 億 56 百万円増益の、11 億 48 百万円となりました。

特別損益



(百万円)

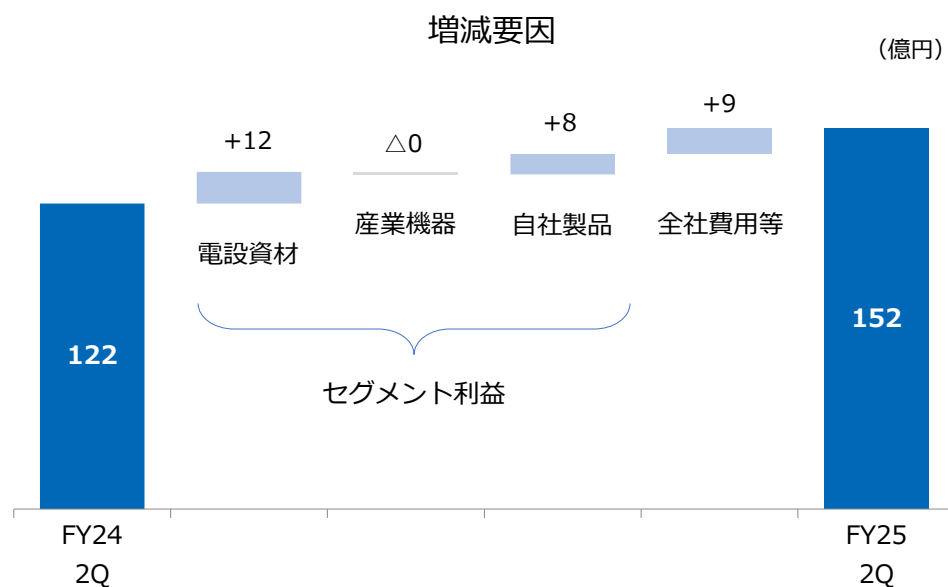
	FY24 2Q	FY25 2Q	増減額	増減率
固定資産売却益	1	3	2	161.7%
特別利益 (A)	1	3	2	161.7%
固定資産除却損	1	2	0	21.7%
固定資産売却損	-	0	0	-
その他特別損失	173	-	-173	-100.0%
特別損失 (B)	175	2	-173	-98.6%
特別損益 (A - B)	-174	1	175	-

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

10

特別損益につきましては、前年同期に自社製品事業における売却予定資産の減損損失があったことにより、当期の特別損失は1億73百万円の減少となりました。

その結果、特別損益は1百万円の利益計上となりました。



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

11

当社では「税金等調整前中間純利益」を管理会計上の利益指標としております。

税金等調整前中間純利益は 29 億 59 百万円の増益となりましたが、その増減要因をグラフ化しております。

販売が好調だった電設資材事業や、価格転嫁が進み利益率が上昇した自社製品事業において増益となりました。

また、受取配当金の増加などにより、全社費用等は減少しました。

連結貸借対照表



(百万円)

	FY24	構成比	FY25 2Q	構成比	増減額	増減率
流動資産	215,720	77%	203,569	74%	-12,151	-5.6%
固定資産	63,262	23%	71,822	26%	8,560	13.5%
資産合計	278,983		275,391		-3,591	-1.3%
流動負債	100,190	36%	81,653	30%	-18,536	-18.5%
固定負債	5,769	2%	9,049	3%	3,279	56.8%
負債合計	105,959	38%	90,703	33%	-15,256	-14.4%
純資産合計	173,023	62%	184,688	67%	11,665	6.7%

※FY24より法人税、住民税及び事業税に関する会計基準等を適用し、FY23は遡及適用後の数値を記載しております。

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

12

次に「連結貸借対照表」をスライドに表しております。

資産と負債の減少は、主に前期末で膨らんだ売上債権と仕入債務の減少などによるものであります。

また、自己資本比率は前期末から 5.1 ポイントアップし、66.9%となりました。

(百万円)

	FY24 2Q	FY25 2Q	増減額
営業キャッシュ・フロー	6,699	9,076	2,377
投資キャッシュ・フロー	-5,899	-3,320	2,579
財務キャッシュ・フロー	-3,041	-3,614	-573
現金及び現金同等物にかかる換算差額	22	-35	-58
現金及び現金同等物の増減額	-2,218	2,107	4,325
現金及び現金同等物の中間期末残高	59,277	68,169	8,891

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

13

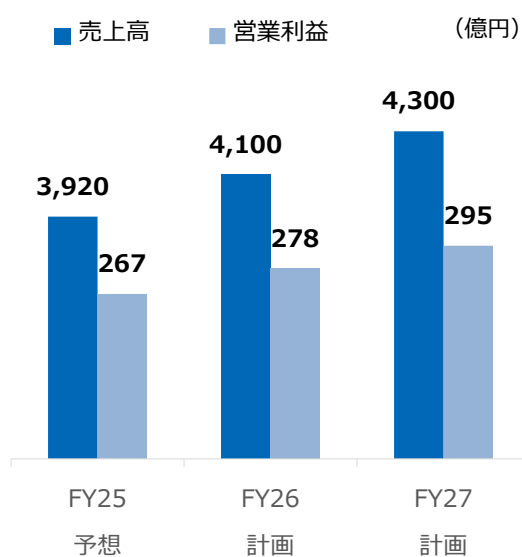
次に「連結キャッシュ・フロー計算書」についてご説明いたします。

営業キャッシュ・フローは、90 億円のキャッシュ・インとなりました。
これは主に、税金等調整前中間純利益の計上や、前期末に計上された売掛金などの回収に伴う売上債権の減少などによるものでございます。

投資キャッシュ・フローは、33 億円のキャッシュ・アウトとなりました。
これは主に、定期預金の払戻と預入の収支や、関係会社の増資によるものでございます。

財務キャッシュ・フローは、36 億円のキャッシュ・アウトとなりました。
これは主に、配当金の支払いによるものでございます。

この結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、前年同期末と比べ 88 億円増加し、681 億円となりました。



電設資材

産業機器

自社製品

重点施策

- ① 自社製品の開発・拡充
- ② 省エネ・省力化ソリューションの推進
- ③ 首都圏市場におけるシェア拡大
- ④ グローバル展開の加速
- ⑤ 事業領域の拡大
- ⑥ サステナビリティ経営の推進

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

14

続いて、中期経営計画と重点施策についてご説明いたします。

当社は、経営環境の変化や計画の達成度に応じて、毎年度、向こう3カ年の数値目標をローリングし、見直しております。

2027年度の計画は、売上高4,300億円、営業利益295億円を数値目標としております。

中期経営計画を達成するため、

「自社製品の開発・拡充」

「省エネ・省力化ソリューションの推進」

「首都圏市場におけるシェア拡大」

「グローバル展開の加速」

「事業領域の拡大」

「サステナビリティ経営の推進」

以上、6つの重点施策を掲げ着実に実行してまいります。

足元の物件受注は好調 ニーズをとらえた事業展開を進める

外部環境

- ・大都市圏を中心に再開発案件が進行
- ・大阪IRに伴う開発需要の拡大



情報通信分野 への進出

エンジニア人材の
育成・採用を進める



首都圏市場の シェア拡大

人員を積極投入し
営業力増強



JAPPY ブランドの拡充

商品発掘に加え
独自製品の開発へ

次に、事業セグメントごとの展望についてお伝えいたします。

電設資材事業の関わる業界環境は、建築着工は建築物省エネ法改正に伴う駆け込み需要の反動減による弱含みがあるものの、民間企業の設備投資の持ち直しの動きが継続し、全体としては堅調な環境が続く見通しです。

足元では、大都市圏を中心に再開発案件が進行していることなどから、当社の物件受注は好調に推移しています。2030年の開業を目指し工事が始まった大阪IR関連需要の刈り取りにも努めてまいります。

さらに、情報通信分野への進出に向けて、計画的にエンジニアリング人材の育成・採用を進め、施工対応力の充実を図るほか、ニーズが高まる防災・減災及び防犯関連設備の提案力強化に努めるなど、事業領域の拡大に積極的に取り組んでおります。

また、当社は元々関西を基盤として事業展開を図ってきたことから、売上全体の約6割を西日本が占めております。市場規模のより大きな首都圏でのシェア拡大に向け、人員の積極投入を通して営業力強化に努めてまいります。

電設資材のプライベートブランド「JAPPY」においては、従来どおりメーカー様の優れた商品の発掘をおこなうことはもちろん、今後は、自社企画による独自の製品開発にも挑戦したいと考えております。

設備投資機運の回復を追い風に 事業拡大に向けて攻勢

外部環境

- ・省力化やDXに向けた設備更新増加
- ・生成AI需要拡大による半導体市場の成長予測



生産性向上支援

メカトロ機器と
IoTを融合させた
コンサルティング提案



電子事業の強化

仕入先様との
協業強化や
社員教育の拡充



トータル提案力向上

バリューチェーン上流
（企画・設計工程）
に向けた提案の推進

産業機器事業は他事業に比べ市場シェアが低く、需要開拓の余地は大きいとみております。

順調な企業収益を背景に、省力化・DXに向けた設備更新などの増加が見込まれるなか、現場の課題に応える省力化ソリューションの提案や、メカトロ機器とIoTを融合させたコンサルティング営業を通して、人手不足が深刻な製造・物流業界などの生産性向上支援に努めてまいります。

また、現在、仕入先様との協業強化によって販売先の拡大・深耕に取り組んでおります。外部登用した経験者による教育も推し進め、電子商材の販売力を底上げすることで事業の一層の強化を図ってまいります。

今後は、製造・物流工程の支援のみならず、ソフトウェアや回路設計の知見を活かして企画・設計といったバリューチェーンの上流に向けた提案を推進することで、更なる付加価値の創出に挑戦してまいります。

海外販売の拡大と 非空調分野のブランド確立へ

外部環境

- ・ 猛暑影響で空調需要は堅調
- ・ 人手不足による省力化需要拡大



海外販売の拡大

- ・ 現地代理店の開拓
- ・ グローバル物流戦略の最適化
- ・ ローカライズ製品の拡充



管材市場への進出

「省施工」をキーワードに
開発・マーケティングを展開



ホールドワン

製品表彰を複数受賞！



開発環境の整備



イノベーションセンター
(2027年竣工予定)

自社製品事業では、空調関連部材の国内トップシェアを死守することはもとより、海外での拡販に取り組んでおります。

現地代理店の開拓を通して販売エリアを拡大しつつ、物流戦略のブラッシュアップによってコスト競争力の向上を図ります。また、ローカライズ製品の開発・改良を推進するためのプロジェクトを結成し、海外向け製品を拡充していくことを計画しております。

非空調分野では、「省施工」をキーワードに管材製品の開発に注力しております。最近では、管材の新製品である「ホールドワン」が、日本建築材料協会の「優良製品・技術表彰」の優秀賞と、日本デザイン振興会の「グッドデザイン賞」のダブル受賞を果たすなど、高い評価をいただいております。

また、これらの取り組みを加速すべく、今年5月に研究開発施設「イノベーションセンター」を建設することを発表いたしました。竣工は2027年夏頃を予定しております。稼働後はイノベーションセンターに自社製品部門を結集することで、INABAブランドの一層の強化を目指してまいります。

2026年3月期 業績予想



(百万円)

	FY24	構成比	FY25	構成比	増減額	増減率
売上高	384,012	100%	392,000	100%	7,987	2.1%
営業利益	25,556	6.7%	26,700	6.8%	1,143	4.5%
経常利益	26,698	7.0%	27,400	7.0%	701	2.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,783	4.9%	19,400	4.9%	616	3.3%

(セグメント別売上高)

電設資材	271,054	71%	273,000	70%	1,945	0.7%
産業機器	38,144	10%	42,000	11%	3,855	10.1%
自社製品	74,814	19%	77,000	20%	2,185	2.9%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

18

2026年3月期の業績予想については、売上高 3,920 億円、営業利益 267 億円、経常利益 274 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 194 億円の見通しです。

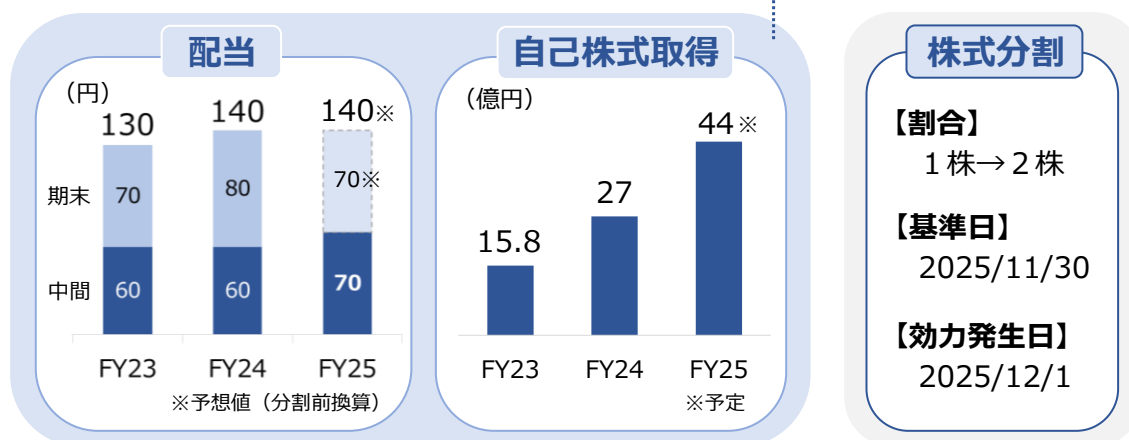
また、セグメント別の売上高は電設資材事業 2,730 億円、産業機器事業 420 億円、自社製品事業 770 億円を予想しています。

上半期につきましては電設資材事業を中心に増収となりました。

下期以降も大都市圏における再開発や企業の設備投資需要は堅調に推移すると期待される一方で、2024 年問題を背景とした物流・建設業の人手不足や米国の関税政策の影響、原材料価格の動向など、先行き不透明な状況が予想されることから、業績予想は据え置きとしております。

株主還元方針

配当と自己株式の取得を合わせた
中期的な総還元性向を60%程度とする



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

19

また当社は先般、株式分割と自己株式の取得を発表いたしました。

株式分割は、投資単位当たりの金額を引き下げ、投資家の皆さまがより一層投資しやすい環境を整えることで、当社株式の流動性の向上及び投資家層の拡大を図ることを目的としております。

2025年11月30日を基準日とし、1株につき2株の割合をもって分割いたします。

自己株式の取得は、配当と自己株式の取得を合わせた中期的な総還元性向を60%程度とする株主還元方針に基づき、株主の皆様に対する利益還元を目的に実施するものです。

取得価額の上限は44億円、株式数の上限は105万株、分割後換算では210万株とし、2025年11月4日から取得を開始しております。

当社はこれからも、資本コストや株価を意識した経営に努めることで企業価値の最大化を図ってまいります。

経営企画室

Tel 06-4391-1835

E-mail keiki@inaba.co.jp

HP <https://www.inaba.co.jp/>



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

20

以上で、因幡電機産業株式会社 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）決算の説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。